自衛隊の現場

青森市（青森県）

青森港で「はまぎり」大盛況
「大湊地方隊マリンフェスタ」に参加

入港歓迎行事「ねぶた囃子」

海上自衛隊第15護衛隊および護衛艦「はまぎり」（艦長・小澤誠2等海佐）は、7月20日と21日の2日間、青森港（青森新中央埠頭）で開催された「令和6年度大湊地方隊マリンフェスタ」に参加しました。イベントには延べ5189人が来艦し、大いに賑わいました。

青森市で海と自衛隊への理解を促進する活動を行っている市民団体「青森艦交会」主催の入港歓迎行事では、地元青森県の松風塾高校生によるマンドリン演奏や、青森市自衛隊家族会による「ねぶた囃子」の披露が行われ、大歓迎を受けました。

一般公開では、甲板上の装備品や搭載航空機（第25航空隊所属SH－60K哨戒ヘリコプター）を展示しました。また、陸上戦闘服、潜水服、飛行服、航空機誘導服などさまざまな服装を身に着けた乗員が艦内の各所に配置され、自らの装備について説明しました。写真撮影コーナーでは、来艦者が記念撮影を楽しむ姿が見られました。

特別公開では、カレー体験喫食や乗員居住区の見学も実施され、参加者からは「居住区や食堂など、乗員の生活環境を見学できたことで、護衛艦勤務のイメージが湧いた。また、初めて護衛艦のカレーを食べてみて、想像以上においしくて驚いた」との声が寄せられました。

さらに、1日艦長イベントには青森県出身のタレント熊谷麻音さん（プロダーツプレイヤー）が来艦。1日艦長として艦内巡視（見学）を実施しました。航空機格納庫でのダーツイベントで「はまぎり」乗員と一般来艦者とのダーツ対決を通じて交流が図られました。

市ヶ谷（東京都）

航空自衛隊　隊員自主募集優秀部隊等を表彰
成果顕著な部隊に航空幕僚長から表彰

北部航空音楽隊は昨年に続き第2級賞状を受賞

7月1日、航空自衛隊の部隊等が令和5年度の隊員自主募集における優秀な成果を称えられ、航空幕僚長から表彰されました。

北部航空音楽隊（三沢）は昨年に続き第2級賞状を受賞。

音楽隊の広報演奏において航空自衛隊の職種説明を実施し、募集周知に貢献したことが評価されました。

隊員は「今後もSNSを活用し、現場のやりがいを伝えることで、募集対象者の将来の選択肢となるよう広報活動を続けていきます」と抱負を語りました。

また、2年ぶりの第2級賞状を受賞した航空中央音楽隊（府中）は、音楽大学へのリクルート活動を積極的に行い、音楽特技の人材プールの確保に成功しました。さらに、音楽特技希望者に限らず部隊見学を通じて入隊希望者を確保した点が評価されました。

「今後もソーシャルメディアを積極的に活用し、特に募集対象年齢をターゲットにした情報発信に力を入れていきます」と意気込みを示しました。

2年ぶりに第2級賞状を受賞した航空中央音楽隊

隊員自主募集とは、少子化および高学歴化により厳しい募集環境の中、部隊員が主体的に募集対象者の情報を収集し、地方協力本部へ提供する活動です。

令和5年度には航空自衛隊全体で2456件の情報が寄せられ、535人の入隊につながりました。

◇　◇

表彰された部隊等は以下の通りです。

第2級賞状
北部航空音楽隊（三沢）
航空中央音楽隊（府中）

第4級賞状
飛行教育航空隊（新田原）

なお、受賞部隊には航空幕僚長から表彰状とともに副賞として賞詞授与枠が贈られました。

那覇（沖縄県）

不発弾処理の歴史的節目
累計4万件の安全処理を達成

関係機関の方々と共に

陸上自衛隊那覇駐屯地に所在する第101不発弾処理隊（隊長・岩瀬亘2等陸佐）は、昭和47年（1972年）から沖縄県内で不発弾の処理を担っており、8月23日には那覇市泊で発見された米国製5インチ艦砲弾の回収をもって、通算4万件（累計1184㌧）の処理を完了しました。

第101処理隊長は、隊員たちを前に「4万件という数字は、われわれにとってのゴールではなく、新たな出発点である。ここまで到達できたのは、諸先輩方が築いた安全を最優先するという堅固な部隊の伝統と、詳細なノウハウを踏襲し、地元自治体や関係行政機関との連携によるものだ。不発弾の存在が今なお県民の安全を脅かしている現実を直視し、私たちは引き続きその脅威から沖縄県民を守る重大な任務に全力を尽くす」と訓示しました。

過去52年間にわたり、不発弾処理隊は1件の事故もなく、不発弾を安全に処理してきました。この長い間、隊員たちは日々の任務に真摯に取り組み、県民の生活の安全を守るという重責を果たしています。

今後も第101不発弾処理隊は、沖縄県民の「安全と安心」を確保するために、不発弾の脅威からその務めを果たしていくとしています。

近代五種競技で日本人初の
国際技術役員として活躍

国際技術役員と記念撮影（左から4番目が清水3佐）

海上自衛隊第2術科学校（学校長・南厚海将補）体育教官室長、清水康3等海佐は8月8日から11日の間、フランス・パリ近郊で開催された第33回オリンピック競技大会（パリ大会）の近代五種競技に国際技術役員（ITO :International Technical Official）として参加しました。

清水3佐は、東京五輪での功績が評価され、日本人初の近代五種競技ITOに選出されました。

今大会では、女子フェンシング・ランキング・ラウンドの主審を務め、日本人審判員としての高い技量を世界に示すとともに、競技運営に多大な貢献を果たしました。

またパリ大会では、海上自衛官の佐藤大宗2等海曹（自衛隊体育学校所属）が、近代五種競技112年の歴史で日本人初の銀メダルを獲得するという快挙を達成しました。しかし、大会期間中、日本人選手は度重なるユニフォームチェックを受ける状況がありました。

清水3佐は、競技運営の重要事項を再確認し、日本チームと共有することで、不要なペナルティを回避するなど、競技運営をサポートしました。

競技前、主催者や競技団体はルールや運営方針をテクニカルミーティングで開示しますが、その情報はすべて英語で提供されます。

清水3佐は、この重要な情報を日本代表チームに日本語で共有し、適切な対策を講じることで、佐藤2曹の実力を最大限に引き出し、メダル獲得に貢献しました。

なお、近代五種競技は2025年1月に馬術競技がオブスタクルスポーツへと変更されることが決まっています。4年後のロサンゼルス大会に向け、日本選手のさらなる強化には国際連盟の新ルールや情報の活用が不可欠であり、パリ大会を通じて、情報戦略の重要性が再認識されました。

百里（茨城県）

日仏共同訓練、百里基地で実施
戦術技量の向上と防衛協力の深化

日仏航空機による編隊飛行

航空自衛隊百里基地（司令・松浦知寛空将補）では、7月19日から20日の両日、日仏共同訓練が実施されました。国内での日仏共同訓練は今回が2回目で、1回目は新田原基地で行われています。

百里基地に着陸したフランス空軍の戦闘機は、消防小隊による放水アーチで歓迎を受けました。日本側から防衛大臣政策参与、中部航空方面隊司令官、飛行群司令、百里基地司令が、フランス側からはフィリップ・セトン駐日仏大使、フランス空軍宇宙コマンド司令官のフィリップ・アダン少将が参列。A330 MRTT空中給油・輸送機からは、訓練指揮官を務めるギヨーム・トマ空軍准将が降機しました。

この訓練には、フランス空軍の主力戦闘機「ラファール」、A330 MRTT空中給油・輸送機、A400M輸送機、そして約260人の隊員が参加し、百里基地で歓迎行事が行われました。

訓練は百里基地周辺の空域で行われ、航空自衛隊の戦術技量の向上と相互理解の促進を目的としました。

また「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向け、防衛協力のさらなる深化が図られました。

日仏共同訓練集合写真

帯広（北海道）

新婚・転入家族向けオリエンテーション
部隊の任務や生活環境を紹介

隊員食堂での会食で親睦を深める

陸上自衛隊第4普通科連隊（連隊長・小林憲正1等陸佐）は8月30日、帯広駐屯地で新婚および転入家族向けオリエンテーションを実施しました。

このオリエンテーションは、隊員や家族の新しい生活への不安を解消し、自衛隊と部隊の任務や活動への理解を深めることを目的としています。参加者は隊員とその家族、単身赴任の隊員などです。

オリエンテーションは駐屯地や部隊の概要説明、帯広市内を巡るマイクロバスツアー、体験搭乗と会食の3部構成で行われました。

帯広駐屯地の紹介では勤務環境を確認。帯広市内の主要施設や観光地なども案内されました。その後、高機動車の体験搭乗や、隊員食堂での会食を通じて参加者同士の親睦が深まりました。

参加者からは「帯広について多くの情報が得られて参考になった」「家族支援が充実していることがわかり、次回は家族と一緒に参加したい」など、好評の声が寄せられ、オリエンテーションは所期の成果を上げました。

船岡（宮城県）

予備自衛官招集訓練を実施
常備自衛官と共に協力、任務達成へ

陸上自衛隊第104施設器材隊（隊長・手嶋要二2等陸佐）は、7月25日から29日までの5日間、船岡駐屯地および王城寺原演習場で予備自衛官招集訓練を実施しました。訓練内容は、射撃検定や体力検定をはじめ、野外勤務、職務訓練（小銃の操作）、野外衛生、特殊武器防護など、予備自衛官として必要な技能を維持・向上させるものです。

今回の訓練には、予備自衛官62人（うち女性6人）と、第104施設器材隊の隊員34人が参加しました。

訓練は厳しい暑さの中で行われたため、熱中症や脱水症状の予防に万全を期し、参加者が前向きに取り組める環境作りに努めました。

職務訓練（小銃の操作）

訓練中には、予備自衛官との懇談会や企業との両立についての懇談会も実施され、体験談やアドバイスが共有されました。予備自衛官は、一度自衛官としての任務を全うした方々で、今は民間企業で活躍する中、企業の理解を得て訓練に参加しています。訓練期間は短かったものの、全員が訓練目標を達成しました。

また、常備自衛官にとっても、先輩である予備自衛官を教育する貴重な機会となり、教官としての識能向上につながりました。

近年の厳しい安全保障環境や頻発する自然災害に備え、予備自衛官の役割はますます重要になっています。有事の際には、常備自衛官と予備自衛官が力を合わせ、日本の平和と独立を守るため、共に任務を遂行する決意を新たにしました。

最後に、訓練が無事に終了したことは、参加者全員の協力のたまものです。参加された予備自衛官の皆さま、大変お疲れさまでした。

弘前（青森県）

第39普連、第2回分隊競技会
ランドナビゲーションの課題も

連隊長の号砲でスタート

陸上自衛隊第39普通科連隊（連隊長・菅沼文洋1等陸佐）は7月24日、弘前演習場において第2回分隊競技会を実施しました。

この競技会は、連隊が掲げる「実戦で戦える部隊づくり」を目指し、分隊の戦闘能力を向上させるための取り組みの一環として、年間計4回予定されているうちの2回目です。

今回の競技では、ランドナビゲーション（地図を使った移動）や識能試験（判断力を試す試験）などの課目が実施されました。

競技会の前に行われた統裁会議で、菅沼連隊長は「訓練期間が限られている中での競技会であり、競技特化の訓練だけではなく、日頃の基本的な行動が勝敗を左右する。各自、安全管理を徹底し、また、分隊員の状況をしっかりと把握しながら、全力で競技に臨むように」と統裁部に指示しました。

当日は雨が強く降る厳しいコンディションの中、隊員たちはコース内に設定された基点を目指し、分隊長の指揮の下、自己の位置を確認しながら進みました。

続いて行われた識能試験では、疲れた体を落ち着かせながら問題に取り組む姿が見られました。

舞鶴（京都府）

舞鶴造修補給所に最新鋭倉庫が完成
スマート物流へ大きく前進

新倉庫の落成式

7月19日、海上自衛隊舞鶴造修補給所（所長・鈴木伸輔1等海佐）において、新設倉庫の落成式が執り行われました。舞鶴地方総監をはじめとする関係者を招き、新たな物流拠点のスタートを祝いました。

新倉庫は、老朽化した旧倉庫群を代替するもので、最新鋭の機材を導入することで、省力化と効率化を大幅に図ることが期待されます。

特に、自動ピッキングシステムは、約1万6千個のコンテナボックスを自動で管理し、必要な物品を迅速に搬出できる画期的なシステムです。

今後は各種機材の設置やシステムの調整を進め、年明けからの本格的な運用開始を目指します。

将来的には、海自ロジスティクス基盤システムとの連携により、さらなる効率化が期待されており、舞鶴造修補給所の物流機能は大きく進化することが見込まれます。

大宮（埼玉県）練馬（東京都）

支援隊、第21次要員が帰国
家族との再会、任務完遂を喜ぶ

出迎えを受け笑顔で駐屯地内を行進

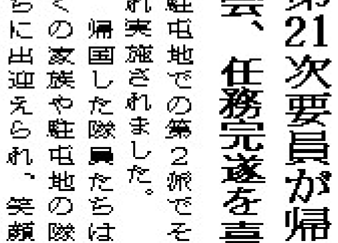
アフリカ東部ソマリア沖アデン湾で海賊対策を行う派遣海賊対処行動支援隊（DGPE）の第21次要員として派遣されていた師団の隊員76人が帰国しました。

帰国行事は、7月31日に陸上自衛隊大宮駐屯地での第1派、8月3日に同練馬駐屯地での第2派でそれぞれ実施されました。

帰国した隊員たちは、多くの家族や駐屯地の隊員たちに出迎えられ、笑顔で駐屯地内を行進しました。

帰国行事では師団長から労いの言葉が送られ、隊員一人一人が派遣先での思い出を語るスピーチが行われました。会場は笑いに包まれ、無事に任務を完遂し帰国できたことを共に喜び合いました。

第1施設大隊の大家2等陸曹は、奥さまと娘さん、さらに3人の幼い息子たちを日本に残し、派遣行動支援業務隊施設班の先任陸曹として任務を全うしました。


家族全員で任務を達成

中学1年生の娘・凜桜（りお）さんは、お父さんが不在の間、学業と部活動の陸上競技に励みながら、3人の弟の世話をし、家をお母さんと共に守り続けました。

「パパが無事に帰ってきてうれしい。また自慢のパパと一緒にランニングをしたいし、何よりたくさん甘えたい」と笑顔で語り、その言葉に応えるように大家2曹の目には感激の涙が光っていました。

家族全員がそれぞれの任務を完遂した大家一家の笑顔は、真っ黒に日焼けした顔に輝く白い歯が印象的でした。

岩手

県陸・海・空自衛隊殉職隊員追悼式
駐屯地司令　故人の功績を称える

儀仗隊による「弔銃」

陸上自衛隊岩手駐屯地（司令・矢山普隆1等陸佐）は9月7日、岩手県内において殉職した自衛官を悼み、追悼式を挙行しました。

式には、ご遺族のほか、雫石町長、地元住民、関係機関の代表者らが参列し、24人の英霊に哀悼の意を表しました。

矢山司令は「われわれは、かけがえのない同僚を失った悲しみを今なお深く心に刻んでいます。殉職された自衛官の勇敢な姿と献身的な勤務は、われわれの心に永遠に生き続けるでしょう」と述べ、故人の功績を称えました。

式典では、隊員たちによる献花、黙祷、弔銃などが行われ、厳粛な雰囲気の中、殉職された自衛官の御霊を慰めました。

対馬（長崎県）

対馬高校生が自衛隊を体験
自衛隊インターンシップで新たな発見

駐屯地のご飯を体験

陸上自衛隊対馬警備隊（隊長・綾森直樹1等陸佐）は8月1日から2日の間、対馬高校2学年の生徒5人（男性3人・女性2人）のインターンシップを支援しました。

初日、生徒たちは慣れない迷彩服に着替え、午前中は基本教練と警備隊長との懇談を行いました。懇談の最初は緊張した様子でしたが、次第に打ち解け、笑い声が響き渡りました。

午後は、普通科中隊による目標発見訓練や、ロープと登はんの体験を行いました。生徒たちにとって大きな挑戦でしたが、互いに励まし合い、全員が最後までやり遂げました。

2日目は、地本による自衛隊の概要説明や、衛生小隊による救急法の実習を行いました。午後は、後方支援隊による有線通信（電話機の取り扱い）や、重トラックの操作体験を実施し、最後に、実際にXに投稿する記事を作成しました。

2日間という短い期間でしたが、生徒たちからは「すごく濃い2日間だった」「自衛隊は優しい人、面白い人ばかりだった」といった感想が聞かれました。

対馬警備隊は、今後も地域との良好な関係を構築し、信頼される駐屯地であり続けるために尽力するとともに、対馬出身の隊員を一人でも増やせるよう、積極的に活動していきます。

問題

数学　頭の体操㉓

時計算の続き第3弾です。

前回の長針と短針が重なり合った6時$32\frac{8}{11}$分から

さらに次に重なるのは何分後の何時何分でしょうか

（解答は7面に）

（出題・解説：antaka）

※漢字あそびはお休みします。